

「環境モデル都市」の概要

| | (大都市) | (大都市) | (大都市) | (大都市) |
|----------|---|---|--|---|
| 視点・基準 | 北九州市 | 京都市 | 堺市 | 横浜市 |
| 大幅な削減目標 | 温室効果ガスを2030年に30%、2050年に50～60%削減(2005年比)、アジア地域への支援により150%削減。 | 温室効果ガスを2030年に40%、2050年に60%削減(1990年比)。 | 温室効果ガスを2030年に15%、2050年に60%削減(2005年比)。 | 温室効果ガスを2025年に30%／人以上、2050年に60%／人以上削減(2004年比)。 |
| 先導性・モデル性 | <ul style="list-style-type: none"> 環境配慮型建築物の普及 高効率交通システムの推進 | <ul style="list-style-type: none"> モビリティ・マネジメントの拡大・継続 四条通のトランジットモール化 細街路への自動車流入抑制 公共交通のロー・カーボン化 | <ul style="list-style-type: none"> LRTなど公共交通を中心とした都市交通システムへの転換 コミュニティサイクルシステム導入、自転車道ネットワーク形成 | <ul style="list-style-type: none"> 市民出資等によるファンド等を資金源とした、再生可能エネルギーの利用拡大 電気自動車等を共同利用する、魅力ある移動手段のシェア |
| 地域適応 | <ul style="list-style-type: none"> 未利用エネルギー供給システム 水素エネルギーモデル地区 ソーラーファクトリー 「北九州エコタウン」の展開 | <ul style="list-style-type: none"> 面積の4分の3が森林 年間約5000万人が訪れる観光都市 | (排出量の約6割が産業部門) <ul style="list-style-type: none"> 低炭素型コンビナートの形成 企業間連携の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 横浜臨海部を再生可能エネルギー活用の最先端エリアへ。 脱温暖化連合「大都市・農山村連携モデル」の構築 |
| 実現可能性 | <ul style="list-style-type: none"> 工業都市として深刻な公害を克服した実績 北九州市民環境パスポート発行による市民参加 | <ul style="list-style-type: none"> 京都議定書誕生の地 歩行者主役のまちづくり、建物の低炭素化、木材の地産地消、ライフスタイル変革で「カーボン・ゼロ都市」に挑む。 | <ul style="list-style-type: none"> 産業構造の転換、都市構造の変革、環境文化の創造により、低炭素都市「クールシティ・堺」の実現を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> リサイクル対策における「市民力」の実績 知の共有、選択肢の拡大、市民力発揮で大都市型背ろカーボン生活の実現を目指す。 |
| 取組の持続性 | <ul style="list-style-type: none"> 低炭素先進モデル「200年街区」づくり 低炭素社会総合学習システムの構築 | <ul style="list-style-type: none"> ライフスタイル・ワークスタイルの変革(環境ファンドの創設、「DO YOU KYOTO?」プロジェクト) | <ul style="list-style-type: none"> 「クールスポット」の保全・創出 市民・企業の知恵の活用 積極的な情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> 住宅性能の評価・格付け制度と経済的インセンティブの付与 緒方開発の省エネ化 横浜環境ポイント制度導入 |

| | (地方中核都市) | (地方中核都市) | (地方中核都市) | (地方中核都市) |
|----------|---|--|---|---|
| 視点・基準 | 飯田市 | 帯広市 | 富山市 | 豊田市 |
| 大幅な削減目標 | 2030年までに、特に排出の著しい民生部門(家庭部門)からの温室効果ガス排出量を40～50%削減し、2050年までに地域全体で70%削減。 | 温室効果ガス排出量を2030年に30%、2050年に50%削減。 | 温室効果ガスを2030年に30%、2050年に50%削減(2005年比)。 | 温室効果ガスを2030年に30%、2050年に50%削減(1990年比)。 |
| 先導性・モデル性 | <ul style="list-style-type: none"> ・タウンエコエネルギーシステムの展開 ・環境にやさしい車両への乗り換え、デマンド型乗り合いタクシーの導入等による移動手段の低炭素化 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民のシンボル「帯広の森」の育成・活用 ・(仮称)エコタウンの造成 | <ul style="list-style-type: none"> ・「富山エコタウン」の展開 ・豊富な水資源を利用した小水力発電の導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・「環境経営ネットワーク」による対策の促進 ・市域の70%を占める森林の健全化 |
| 地域適応 | <ul style="list-style-type: none"> ・「おひさま」と「もり」のエネルギーを最大限活用し、エネルギーを域産域消(環境視点からの木材利用と森林管理の推進) | <ul style="list-style-type: none"> ・低炭素型の農畜産業の推進 ・豊富なバイオマス資源の活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国でも自動車依存度が著しく高い都市。 ・LRTを中心とした公共交通ネットワークの拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境技術開発・普及のためのフィールドの提供 ・環境技術の活用等による交通対策の促進 |
| 実現可能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・H8に「環境文化都市」を目指す都市像に掲げ、地域ぐるみで環境問題に取り組んでいる。 ・地域ぐるみ環境ISO研究会を核とした低炭素企業活動の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・畑作や酪農を中心とした大規模農業経営を展開する地方中核都市であり、農業を中心とした「田園環境モデル都市」を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・交通体系の整備、公共交通を軸としたコンパクトシティの実現等により、削減目標達成を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人と環境と技術が融合する「ハイブリッド・シティとよた」をコンセプトに、活力ある低炭素社会を目指す。 |
| 取組の持続性 | <ul style="list-style-type: none"> ・条例、地球温暖化防止コーディネーターの養成・活用、地域間交流、環境教育等による地域全体の意識変革 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境家計簿の普及、マイバッグ・マイ箸・マイボトル持参運動、木質ペレットストーブ普及等、全市民運動の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民、企業、行政等が一体となった「チーム富山市」による市民総参加型の温暖化防止活動を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・3つの分野「交通」「産業」「森林」を柱に、「民生」を各分野への支えとして位置づけ。 |

| | (小規模都市) | (小規模都市) | (小規模都市) | (小規模都市) |
|----------|--|--|---|---|
| 視点・基準 | 下川町 | 水俣市 | 宮古島市 | 梶原町 |
| 大幅な削減目標 | 温室効果ガスを2030年に32%、2050年に66%削減、吸収量を2030年に3.8倍、2050年に4.5倍増(1990年比)。 | 温室効果ガスを2030年に33%、2050年に50%削減(2005年比)。 | 温室効果ガスを2030年に30~40%、2050年に70~80%削減(2005年比)。 | 温室効果ガスを2030年に50%、2050年に70%削減、吸収量を2030年に3.5倍、2050年に4.3倍増(1990年比)。 |
| 先導性・モデル性 | <ul style="list-style-type: none"> ・下川生まれ、下川育ちの家づくり「ゼロカーボン住宅」 ・快適住環境整備促進(リフォーム住宅)制度の導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・“水俣版”環境ISOの推進 ・地区環境協定制度 ・ごみの減量・高度分別(22種) | <ul style="list-style-type: none"> ・南国型エコハウスのアジア展開 ・クリーンエネルギーによる運輸部門のCO2フリー化 | <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス地域循環モデル事業プロジェクト ・風力・小水力・太陽光発電の積極的な整備 |
| 地域適応 | <ul style="list-style-type: none"> ・循環型森林経営の実施 ・早生樹「ヤナギ」の栽培 ・森林バイオマスエネルギーの導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用したバイオマスエネルギーの創出 ・新エネルギーの積極的活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビ増産による製糖後の残さを発電利用、バイオエタノールを運輸燃料利用、廃食用油原料バイオディーゼルの利用等 | <ul style="list-style-type: none"> ・確実な森林施業と作業の効率化、持続的な森林経営の実現等の森林吸収プロジェクト |
| 実現可能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・町面積の90%が森林である特性を生かし、「北の森林共生低炭素モデル社会」の創造を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・水俣病の教訓を糧に環境実践活動と環境技術による経済活性化を促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・美き島募金箱等による意識啓発、エコ活動のネットワーク推進等、太陽と市民のエネルギーを活用した取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・循環モデル事業の実施による山村型低炭素社会の実現と地域資源利用による電力自給率100%超を目指す。 |
| 取組の持続性 | <ul style="list-style-type: none"> ・住民参加協働運動、二酸化炭素削減コンテスト、森林環境教育等により、市民の活力を導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・エコショップ認定制度、市民の森づくり等、地域ぐるみの多様な活動を推進 ・みなまた環境大学、村丸ごと生活博物館による環境学習都市づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・地元資源であるサトウキビを最大限に活用し、自給自足のエネルギー供給システムを構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる世代の人材育成と、都市や企業との交流・連携による地域活力の創出、森林セラピー等の環境産業を推進 |

(東京特別区)

| 視点・基準 | 千代田区 |
|----------|---|
| 大幅な削減目標 | 2020年までに区内の二酸化炭素排出量を1990年比で25%削減。 |
| 先導性・モデル性 | ・高水準な建物のエネルギー対策 ・まちづくりの機会と場を活かした面的対策 |
| 地域適応 | ・地方に設置する市民風力発電の直接電力購入や木質バイオマスプロジェクトの推進 ・庁用車(低CO2車)のカーシェアリング化 |
| 実現可能性 | ・経済と行政の中枢で実現する低炭素と新、多様な人材とのパートナーシップにより環境と経済の両立を目指す。 |
| 取組の持続性 | ・区民・大学・企業等で組織されるCES(千代エコシステム)推進協議会等と連携した、環境配慮行動の促進と環境教育等の充実 |